

宇和島市白浜地区でのすくい網漁業について

安 永 由 浩*

A dip net fishery in Shirahama area, Uwajima City, Ehime Prefecture
Yoshihiro Yasunaga

The dip net fishery is the fishery using dip net. It is simple, and it is small scale fishery. Though there are many modernized fisheries, there are some traditional fisheries adapted to the natural environment which was characteristic of the area in Ehime Prefecture, too. It is necessary to record these traditional fisheries. In this report, the present condition of the dip net fishery in the Shirahama area. Uwajima City was described.

は じ め に

愛媛県は、瀬戸内海、宇和海に面し、海面漁業と養殖業の生産額では全国第3位（平成11年）である（中国四国農政局愛媛統計情報事務所 2001）。著者は、平成12年度に企画展「海のめぐみ」を開催するにあたり、愛媛県の漁業について調査する機会を得た。近代化、効率化が進んだ漁業が多い中、地域特有の自然環境にあわせた伝統的な漁業も今なお数多く営まれており、これらの漁業について記録する必要があると考えた。今回、宇和島市白浜地区での「すくい網漁業」をとりあげ、現地調査を行ったのでここに報告する。

すくい網漁業の概要

すくい網漁業は「すくい網（たも網、叉手網、四つ手網などの総称）」を使用して行う漁業であり、網を使用する漁業のなかでは最も簡単な漁法の1つである。一般に、すくい網の使用に関して漁業規則上の規則はないが、火光を利用し、魚を集め漁獲する場合は稚魚をとることが多いため、地域によって知事許可漁業になっている場合がある（金田 1989）。

愛媛県では今治市沖の小島周辺と宇和海沿岸で操業され、いずれも火光を使用して魚を集めるため、知事許可漁業に指定されている（図1）。許可上の名称は、「たきよせすくい網漁業」（今治市小島周辺）、「いわし、あじ、さばたきよせすくい網漁業」（宇和海沿岸）として区分されている。

来島海峡に位置する小島（おしま）周辺では、最速時

10ノットに達する潮流が島に当たり渦巻流や上昇流を発生させる。「たきよせすくい網漁業」は、このような流れに寄りつく魚介類を漁獲の対象としている。江戸時代には既に操業されており、同じ漁法で現在も操業されている。現在、少数の漁業者が春先（4月～6月）にかけて主にイカナゴを漁獲している（愛媛県水産課 1969 近藤 1982 愛媛県生涯学習センター 1997）。

一方、「いわし、あじ、さばすくい網漁業」は、宇和海沿岸に生息するシラスを漁獲の対象としている。1年を通じて操業され、カタクチイワシの産卵期である春と秋が盛漁期である（愛媛県水産課 1969）。宇和海沿岸の広い地域で操業されているが、漁獲量、漁労体数ともに宇和島市が最も多く、そのほとんどが白浜地区で行われている（図2, 3, 4）。

宇和島市白浜地区のすくい網漁業は、大正時代に始まったとされる。当時、現在の岡山県倉敷市下津井から来た漁民によって「ほこ突き漁」が伝えられた。ほこ突き漁は、夜間に海中に灯火で照らし、箱メガネで海中を見ながら長い竿の先につけたヤスでウニ、アワビ等をとる漁業である。この漁の最中、明かりにシラスが集まるのを見て、すくい取るようになったのがすくい網漁の始まりとされる。発祥後すぐは、各家庭で消費する量をとるだけであった。本格的な操業は、昭和30年代に動力船が導入され、また、仲卸業者がシラスを加工した「ちりめん」を取り扱い始めてから行われるようになった。

宇和島市白浜地区のすくい網漁業詳細

宇和島市白浜地区でのすくい網漁業では、（1）シラスの群を探す（2）集魚灯でシラスを集める（3）集めたシラスを岸に寄せる（4）すくいあげる、という順に漁を行う。

* 愛媛県総合科学博物館 学芸課 産業研究科
Dept. of Industry Ehime Pref. Science Museum

(1) シラスの群を探す

夕刻、出港し漁場に到着すると魚群探知機・ソナーを使用してシラスの群を探す。東宇和郡明浜町大崎から南宇和郡内海村由良崎まで宇和海沿岸を漁場とし、リアス式海岸特有の入りくんだ湾内でシラスを探してゆっくりと船を進める。

(2) 集漁灯でシラスを集める (図5 写真1, 2, 3)

シラスの群をみつけると、船を止め日没を待つ。日没後、周囲が暗くなると、集漁灯を点灯し、集魚をはじめ。船上の集漁灯を2灯、水中の集漁灯を2灯使用し、広い範囲に光が届くようにしてシラスを集める。

(3) 集めたシラスを岸に寄せる (図6, 7 写真4)

シラスの群が集まってくると櫓を漕ぎ、船を岸へと進める。シラスの泳ぐ速さにあわせ数百メートルを30分以上かけて船を進める。

岸に近づくにつれて水深が浅くなり、深いところにいるシラスも浅いところに集まり、次第にシラスの群の密度が濃くなる。また、水中灯も船上に引きあげて集漁灯の電圧を下げて照らす範囲を狭めて、シラスの群の密度を濃くさせ、すくいあげやすくする。

(4) すくいあげ (図8 写真5, 6)

岸辺の水深約1mの付近まで来ると、錨を降ろし船を止め、シラスの群をすくいあげる。魚槽に入れたシラスは、水を入れて締め、鮮度が落ちないようにする。漁は1晩に1回だけ行ない、シラスをすくい終えたと、直ちに加工場に運ぶ。

加工・流通

漁獲されたシラスは、宇和島市内に10軒ある加工場でちりめん加工される。加工場に運ばれたシラスは、直ちにゆであげ、翌朝まで冷蔵庫に保管し、天日干しにする (写真7, 8)。こうしてつくられたちりめんは、漁協に集荷され、仲卸業者の入札にかけられ、流通販売される。

船びき網漁でとるシラスは、網を曳いている間に網の中で死んでしまうことが多いが、すくい網漁ではすくいあげた後、生きているうちに水で締めるため、鮮度を保つことができる。また、集漁灯で魚を集めてすくうため、エビ・イカなどの混ざりものが入らない。これを、天日でじっくりと干すことで、味歯ごたえの良い高品質のちりめんとなる。こうして生産されたちりめんは、「すくいちりめん」という名称で高級製品として流通、販売されている。

宇和島市白浜地区でのすくい網漁業の漁具

「いわし、あじ、さばたきよせすくい網漁業」で使用される主な漁具は、(1) 集漁灯 (2) すくい網 (3) 櫓 (4) 魚群探知機、ソナーである (写真9)。

(1) 集漁灯 (写真10, 11)

シラスの群を集めるために使用する.500~1000Wの電球を数個使用し、水中、海面を照らす。

宇和島市白浜地区ですくい網漁業が始まった大正時代中頃は、カーバイドを燃料としたガス灯が使用されていた。昭和17年頃になるとバッテリーと電球が使用されはじめた。漁には6Vのバッテリー2個と予備の4Vのバッテリー1個を持って行き、漁が終わると充電所で充電し、次の漁に使用した。昭和30年頃から発電機が普及し始め、現在の集漁灯になった。

(2) すくい網 (写真12)

「スィデ」とも呼ばれるたも網で、集漁灯のもとに集めたシラスをすくいあげるために使用する。たも網の枠は円形で直径60~100cm、柄の長さは約3mである。材質は、枠は鉄やステンレス製で、柄は竹やプラスチック製である。網は、クレモナやナイロン製の目合が160経 (約3mm) のもじ網を袋状に加工して使用している。

白浜地区ですくい網漁業が始まった頃は、竹籠等でシラスをすくいあげていた。昭和17年頃からシラスを多く漁獲できるように、エビ網と呼ばれる叉手網 (さであみ) が使用されるようになった (写真13)。さらに、昭和40年頃からたも網が普及しはじめ、現在の形になった。

(3) 櫓 (写真14)

船を岸に寄せるとき、船をゆっくりと動かすために櫓を使用する。材質は桎の木で、長さは船の大きさによって変わるが約5mである。エンジンでは、シラスの泳ぐ速さにあわせた微妙な操作ができないため、現在でも櫓が使用されている。

(4) 魚群探知機・ソナー

魚群探知機は、船の下方に超音波を発信し、海底や魚群からの反射した音波を受信し魚群を発見する。魚種で有効な周波数が違い、シラスなど魚体の小さい魚は、高周波でないと反応しない。すくい網漁では、50KHzと200KHzの周波数を使用し、シラスとそれ以外の魚の群を見分けている。

昭和40年頃から導入されはじめ、現在ではすべての船に導入されている。魚群探知機が導入される以前は、あらかじめ湾内で漁場を決めて集漁灯を点灯する方法、集

漁灯で海面を照らしながら、船を移動させ水面をはねるシラスを探す方法がとられていた。

ま と め

愛媛県宇和島市白浜地区でのすくい網漁業は、岡山県下津井から伝わった「ほこ突き漁」で使用する灯火に集まったシラスをとり始めた漁法が、独自に改良されていた漁業であるといえる。現在に至るまで、効率よく漁をするための漁具の改良はあるが、火光を使用してシラスを集める点は発祥以来変化していない。

人力に頼る部分が多い漁法のため、大量に漁獲量をあげることはできないが、品質の高いちりめんを生産し、流通販売での付加価値を高めている。

謝 辞

この調査をまとめるにあたって、宇和島漁業協同組合理事の福岡秀政氏、白井松寿氏には、漁の様子や歴史について御教示をいただいた。愛媛県農林水産部水産局水産課の渡邊昭生氏には、愛媛県の漁業全般について、様々な御指摘、御助言をいただいた。ここに記して深く御礼を申し上げます。

引用文献

- 中国四国農政局愛媛統計情報事務所（2001）：愛媛県漁業の地位「平成11年 図説 愛媛県漁業の動き」。
愛媛農林統計協会，愛媛県．4－5．
- 金田禎之（1994）：すくい網。「漁業日本漁具・漁法図説 増補改訂版」．成山堂，東京．419－428．
- 愛媛県農林水産部水産課（1969）：愛媛県知事許可漁業，愛媛県．愛媛．38－39．
- 近藤福太郎（1982）：半農半漁の小島集落「高縄半島と芸予の島々 ―その地理歴史研究―」．ふるさとをしらべる会，愛媛．56－61．
- 愛媛県生涯学習センター（1997）：「昭和を生き抜いた人々が語る 愛媛の景観（平成8年度地域文化報告書）」．愛媛県生涯学習センター，愛媛．57－62．
- 中国四国農政局愛媛統計情報事務所（1999）：水産業の部．「愛媛農林水産統計年報 平成10～11年」．愛媛農林統計協会，愛媛県．157－280．

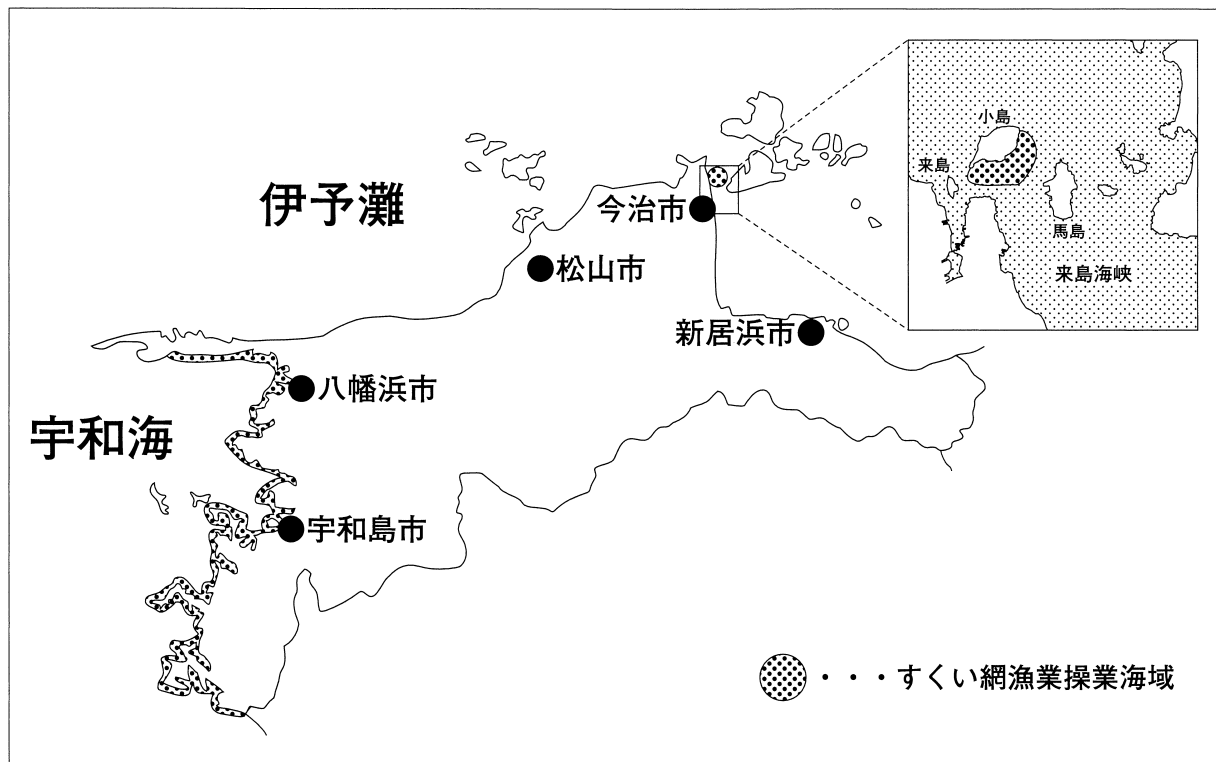


図1 すくい網漁業操業場所
聞き取りにより作成

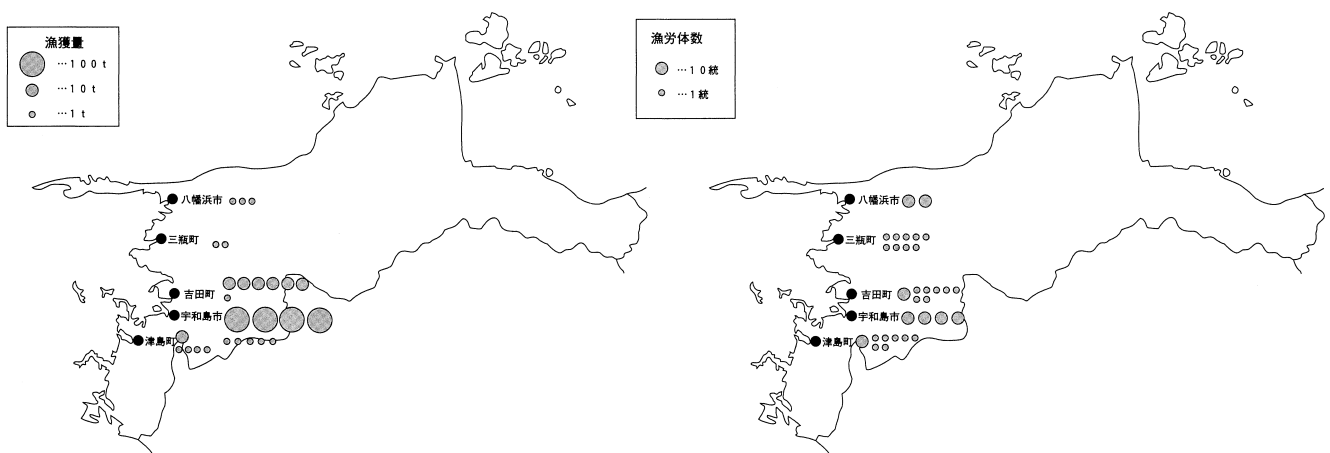


図2 すくい網漁業の漁獲量（平成10年）
中国四国農政局愛媛統計情報事務所（2000）：愛媛農林水産
統計年報，愛媛農林統計協会，愛媛，P239より作成

図3 すくい網漁業の漁労体数（平成10年）
中国四国農政局愛媛統計情報事務所（2000）：愛媛農林水産
統計年報，愛媛農林統計協会，愛媛，P239より作成

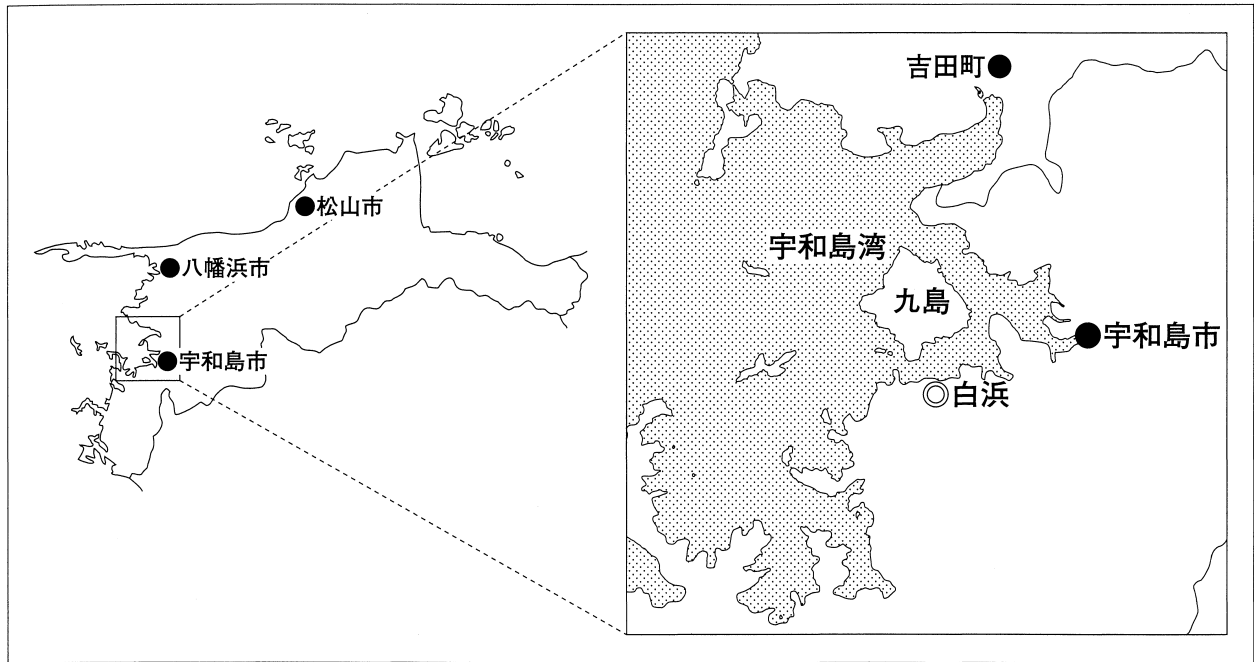


図4 宇和島市周辺地図

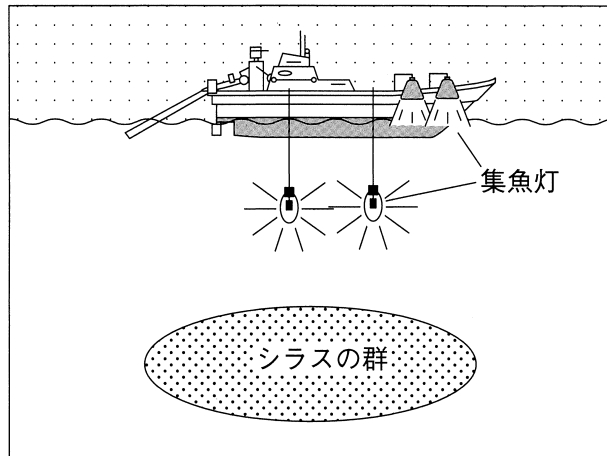


図5 集魚灯でシラスを集める
船上と水中の集魚灯を点灯しシラスの群を引き寄せる。

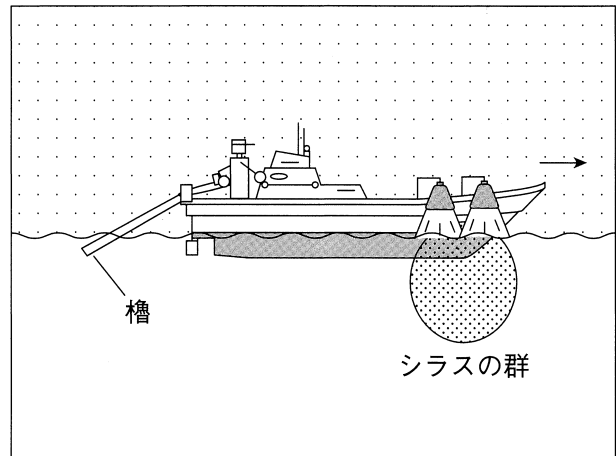


図6 集めたシラスを岸に寄せる
船上の集魚灯のもとにシラスを集めて、岸に移動する。

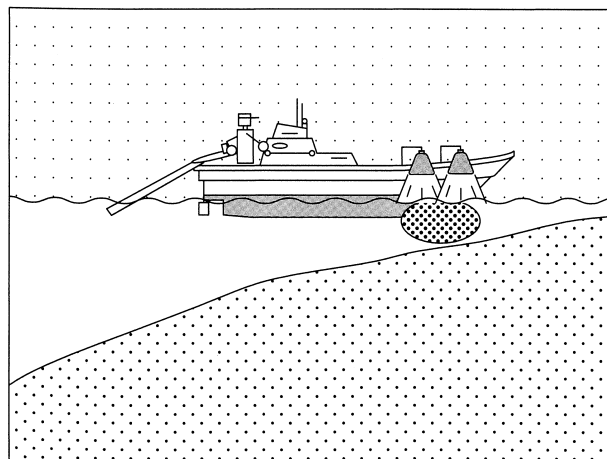


図7 集めたシラスを岸に寄せる
シラスの群を浅瀬に誘導し、群の密度を濃くする。

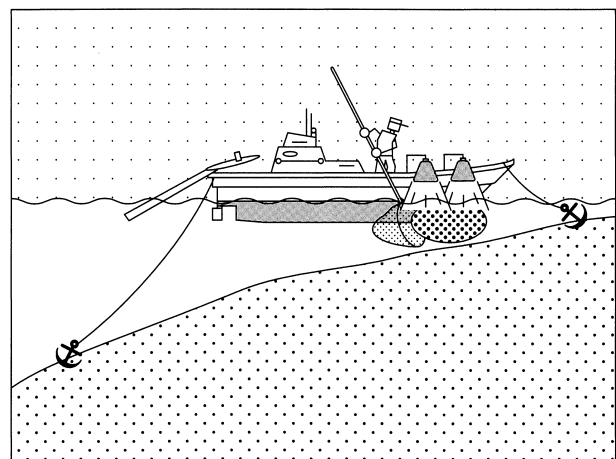


図8 すくいあげ
すくい網でシラスを船上にすくいあげる。



写真1 集魚灯を点灯させた漁船



写真2 集魚灯

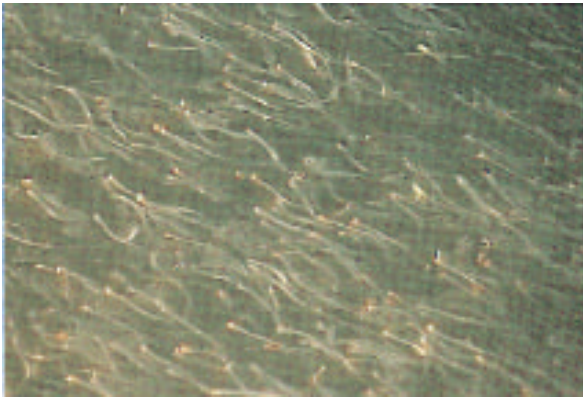


写真3 集魚灯に集まるシラス



写真4 シラスの泳ぐ速さにあわせて櫓を漕ぐ



写真5 すくい網でシラスをすくう



写真6 すくい網でシラスをすくう



写真7 シラスの水揚げ



写真8 シラスをゆでる



写真9 すくい網漁の漁船と漁具



写真10 集魚灯（海上用）



写真11 集魚灯（海中用）



写真12 すくい網



写真13 エビ網

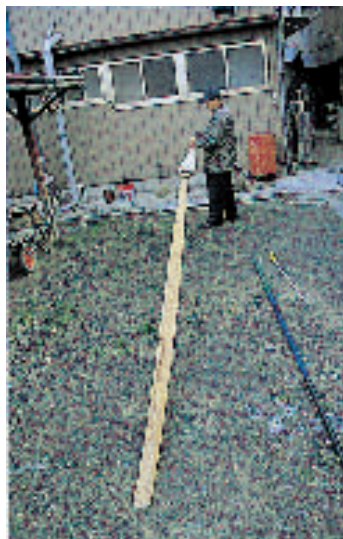


写真14 槽